



『千に染める古の色』
久保田香里／著 紫昏たう／絵
アリス館 ¥1,400 (税別)

時は平安時代。右大臣、藤原実資の娘の千古姫は、女性が成人になる儀式「裳着」が近づいていた。新しい衣装の布を見た姫は、源氏物語の衣装の再現を思いつき…。目次の「かさねの色目」で色の組み合わせを見ながら読むとわかりやすい。



『タガヤセ！日本』
白石優生／著
河出書房新社 ¥1,420 (税別)

日本の農業の「今」を「国家公務員YouTuber」の視点で発信！機械化と技術の高さにより超優秀な日本の農畜産物から、食品ロス・食料自給率などの問題にまで目を向け、農業の未来を語る。生きるために不可欠な「食」を支える農業の魅力が満載。



『“正しい”を疑え！』
真山仁／著
岩波書店 ¥860 (税別)

自分や世間が当然だと思っていることは、本当に「正しい」のか。著者は現代社会の裏側を鋭く描き出す小説家。SNSやメディアから発信される多数の情報をうのみにする危険性を説きながら、情報を見極める方法を記した一冊。



『中高生のスポーツハローワーク』
中高生のスポーツハローワーク編集部／編著
Gakken ¥1,800 (税別)

「スポーツにかけた時間と努力」は「貴重な財産」。競技者以外のスポーツに関わる仕事を、実例で多数紹介。現場で働く先輩の声、進路の選び方などスポーツ大好き中高生に向けた情報が満載。未来を切り開くヒントが見つかるはず！



『手で見るぼくの世界は』
樫崎茜／作 酒井以／画
くもん出版 ¥1,400 (税別)

祐は視覚支援学校で同じクラスの双葉が転倒事故後に不登校となり心配している。自らは、友人関係の葛藤や白杖歩行への不安を抱える。視覚に障害のある二人が世界をどう見ているのか、外出時の恐怖をどう乗り越えて成長するかを描く物語。



『パンに書かれた言葉』
朽木祥／作
小学館 ¥1,400 (税別)

現代の中高生は、身近な人から戦争体験を聞く機会があるだろうか。主人公エリーは日本とイタリア、双方の祖父母から、戦争を学ぶ。祖父母も孫に伝えることで、戦時中からの想いを昇華させていく。戦争体験を次代へ引き継ぐ物語。



『ぼくたちはまだ出逢っていない』
八束澄子／作
ポプラ社 ¥1,400 (税別)

いじめや進路に悩む中学3年の陸と、母の再婚相手の家で居場所がないと感じる中学2年の美雨が、「金継ぎ」をきっかけに大切なものや人に出逢う。迷っても自分のペースで進めばいい、と背中をそっと押してくれる一冊。



『魔女だったかもしれないわたし』
エル・マクニコル／著 榎田理絵／訳
PHP研究所 ¥1,400 (税別)

人と違うという理由で迫害された彼女たちは私だったかもしれない、と魔女に共感した自閉症の少女アディは、魔女裁判で命を奪われた人々の慰霊碑づくりを村に提案する。しかし、負の歴史を掘り返したくない人々から相手にされず…。

『空を見上げてわかること』
斉田季実治／著 PHP 研究所 ¥1,300 (税別)

『マスク越しのおはよう』
山本悦子／著 田中海帆／絵 講談社 ¥1,600 (税別)

『なんで信長はお城を建てたの？』
畑中英二／著 にしざかひろみ／画 新泉社 ¥2,000 (税別)

『目で見ることばで話をさせて』
アン・クレア・レソット／作 横山和江／訳 岩波書店 ¥2,100 (税別)

『ぼくたちのスープ運動』
ベン・デイヴィス／作 渋谷弘子／訳 評論社 ¥1,600 (税別)

『ヤングケアラーってなんだろう』
澁谷智子／著 筑摩書房 ¥760 (税別)

『僕らが学校に行く理由』
渋谷敦志／写真・文 ポプラ社 ¥2,200 (税別)